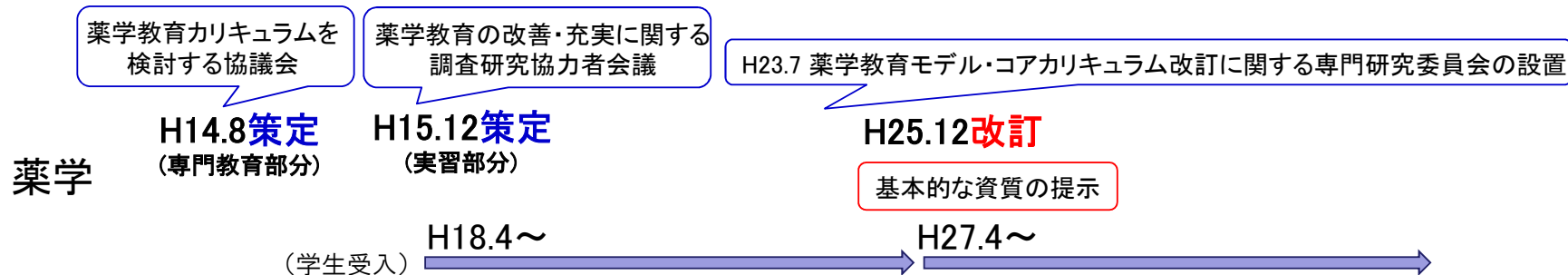


薬学教育協議会オンラインシンポジウム
薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂)について
2023.4.12

全体の概要

一般社団法人 薬学教育協議会 本間 浩

医学、歯学、薬学、看護学のコアカリ策定・改訂の変遷



薬学教育モデル・コアカリキュラム 改訂スケジュール

年度	薬学	(参考) 医学・歯学
2019年度 (令和元年度)	調査研究委託(1年目) ※委託先:日本私立薬科大学協会	
2020年度 (令和2年度)	調査研究委託(2年目) ※委託先:日本私立薬科大学協会	調査研究委託(1年目)
2021年度 (令和3年度)	調査研究委託(3年目) ※委託先:日本私立薬科大学協会 コアカリ改訂検討開始	調査研究委託(2年目) コアカリ改訂検討開始
2022年度 (令和4年度)	コアカリ改訂完了	調査研究委託(3年目) コアカリ改訂完了
2023年度 (令和5年度)	(準備期間)	(準備期間)
2024年度 (令和6年度)	学生受け入れ	学生受け入れ

薬学・医学・歯学は同時改訂

私立薬科大学協会 6年制薬学教育制度調査検討委員会

- * 井上 圭三 (日本私立薬科大学協会 会長)
- 一條 秀憲 (東京大学大学院薬学研究科 教授)
- * 伊藤 智夫 (薬学共用試験センター 理事)
- * 奥 直人 (薬学共用試験センター 理事長)
- 笠貫 宏 (早稲田大学 特命教授、元東京女子医科大学 学長)
- 桐野 豊 (徳島文理大学 名誉学長・名誉教授)
- * 小佐野 博史 (帝京大学薬学部 教授)
- * 後藤 直正 (全国薬科大学長・薬学部長会議 会長)
- 佐々木 茂貴 (日本薬学会 会頭)
- * 白幡 晶 (城西大学 学事顧問)
- * 鈴木 匡 (名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)
- 高田 早苗 (日本看護学教育評価機構 代表理事)
- * 武田 香陽子 (北海道科学大学薬学部 准教授)
- * 中村 明弘 (日本薬学教育学会副理事長)
- 西島 正弘 (薬学教育評価機構 理事長)
- * 平井 みどり (兵庫県赤十字血液センター 所長)
- * 平田 收正 (和歌山県立医科大学薬学部 教授)
- * 本間 浩 (薬学教育協議会 代表理事)
- * 政田 幹夫 (大阪医科薬科大学薬学部 招聘教授)
- * 山田 勉 (名古屋市立大学高等教育院 教授)

* 幹事会委員

薬学系人材養成の在り方に関する検討会

目的

平成18年度からの新制度下における薬学系大学の人材養成の在り方に関する専門的事項について検討を行い、必要に応じて報告をとりまとめる。

検討項目

- (1) 薬学教育の質の保証に向けた施策の検討について
- (2) 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの策定について
- (3) その他

構成員一覧

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 石井 伊都子 | 一般社団法人 日本病院薬剤師会理事 |
| 乾 賢一 | 一般社団法人 日本薬学教育学会理事長 |
| ○井上 圭三 | 帝京大学副学長 |
| 奥田 真弘 | 一般社団法人 日本医療薬学会会頭 |
| 北澤 京子 | 京都薬科大学客員教授 |
| 小西 靖彦 | 京都大学医学教育・国際化推進センター教授 |
| 後藤 直正 | 京都薬科大学長 |
| 佐々木 茂貴 | 公益社団法人 日本薬学会会頭 |
| 田尻 泰典 | 公益社団法人 日本薬剤師会副会長 |
| 土屋 浩一郎 | 徳島大学薬学部長 |
| 手代木 功 | 日本製薬工業協会副会長 |
| ◎永井 良三 | 自治医科大学長 |
| 西島 正弘 | 一般社団法人 薬学教育評価機構理事長 |
| 狭間 研至 | 一般社団法人 日本在宅薬学会理事長 |
| 本間 浩 | 一般社団法人 薬学教育協議会代表理事 |
| 柳田 俊彦 | 宮崎大学医学部看護学科長 |
| 山口 育子 | 認定NPO 法人ささえあい医療人権センター
COML 理事長 |

◎座長 ○座長代理
(五十音順・敬称略)

※オブザーバーとして厚生労働省も参加

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

目的

薬学系人材養成の在り方に関する検討会の審議を踏まえ、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する恒常的な組織を設置する。

検討項目

- (1) 薬剤師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

構成員一覧

- 石井 伊都子 一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事
伊藤 智夫 特定非営利活動法人 薬学共用試験センター 理事
- ◎井上 圭三 帝京大学 副学長
小澤 孝一郎 広島大学 副学長
角山 香織 大阪医科薬科大学薬学部 准教授
河野 文昭 徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授
小佐野 博史 帝京大学 名誉教授
小西 靖彦 京都大学大学院医学研究科 教授
鈴木 匡 名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授
高田 早苗 日本赤十字看護大学 名誉教授
高橋 秀依 東京理科大学薬学部 教授
長津 雅則 公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事
平井 みどり 神戸大学 名誉教授
平田 収正 和歌山県立医科大学薬学部 教授
- 本間 浩 一般社団法人 薬学教育協議会 代表理事
矢野 育子 神戸大学医学部附属病院 教授

◎座長 ○座長代理
(五十音順・敬称略)

※オブザーバーとして厚生労働省も参加

基本理念と背景

キャッチフレーズ

医・歯・薬で共通化 = 医療人として価値観を共有

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

今回の改訂は、「変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を目指して医学・歯学・薬学教育の3領域で統一的に取りまとめた。

近年、人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、感染症の危機等様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯に渡って活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を醸成し、多職種で複合的な協力を行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められる。また、患者や家族の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要である。さらには、ビッグデータやAIを含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

これらを教育面から具現化するため、新たな「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の提示、各大学の創意・工夫に基づいたカリキュラム作成、課題の発見と解決を科学的に探究する人材の育成、医学・歯学・薬学の教育内容の一部共通化を行うこととした。

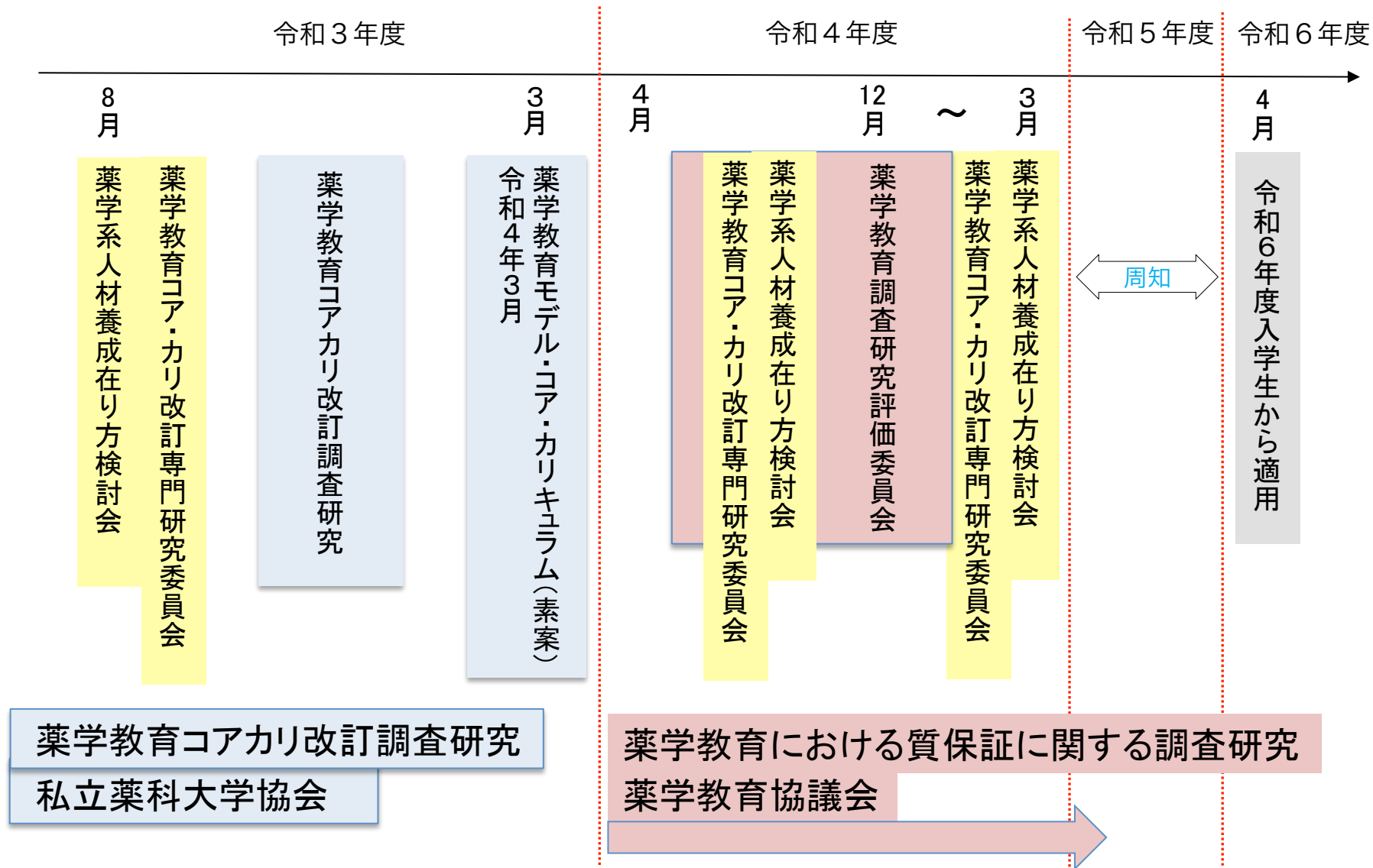
また、今回の改訂では、生涯にわたって目標とする「薬剤師としての基本的資質・能力」を掲げた学習成果基盤型教育を柱とし、平成25年度改訂版薬学教育モデル・コアカリキュラムの深化を図り、薬学教育の質保証の観点から改革を進めることを企図する。

薬剤師として求められる基本的な資質・能力（案）

薬学系人材養成の在り方に関する検討会 第2回(令和3年12月24日)資料4 一部改変

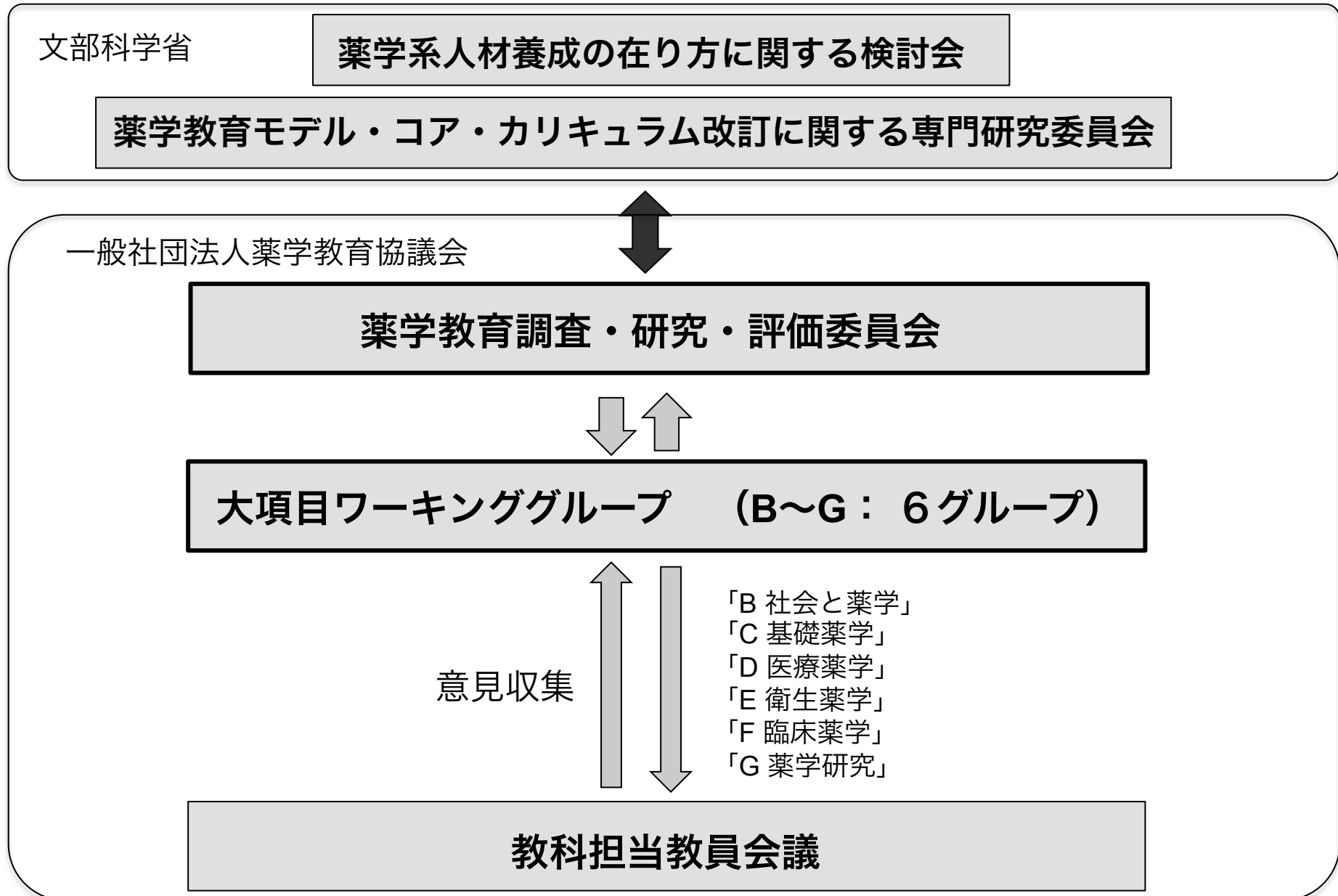
平成25年度 薬学教育モデル・コアカリキュラム 資質	令和4年度版 薬学教育モデル・コアカリキュラム 資質・能力（案）	【参考】令和4年度版 医学/歯学教育モデル・コアカリキュラム 資質・能力
	【前文】医療/歯科医療の質と安全管理、プロフェッショナリズム	【前文】医療/歯科医療の質と安全管理、プロフェッショナリズム
1. 薬剤師としての心構え	1. プロフェッショナリズム	1. プロフェッショナリズム
2. 患者・生活者本位の視点		
	2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢（仮）	2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢（仮）
9. 自己研鑽 10. 教育能力	3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
8. 研究能力	4. 科学的探究	4. 科学的探究
5. 基礎的な科学力	5. 専門知識に基づいた問題解決能力	5. 専門知識に基づいた問題解決能力
	6. 情報・科学技術を活かす能力（仮）	6. 情報・科学技術を活かす能力（仮）
6. 薬物療法における実践的能力	7. 薬物治療の実践的能力	7. 患者ケアのための診療技能
3. コミュニケーション能力	8. コミュニケーション能力	8. コミュニケーション能力
4. チーム医療への参画	9. 多職種連携能力	9. 多職種連携能力
7. 地域の保健・医療における実践的能力	10. 社会における医療の役割の理解	10. 社会における医療の役割の理解

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のスケジュール



薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の実施体制

(文部科学省 令和4年度大学における医療人養成の在り方に関する調査研究)



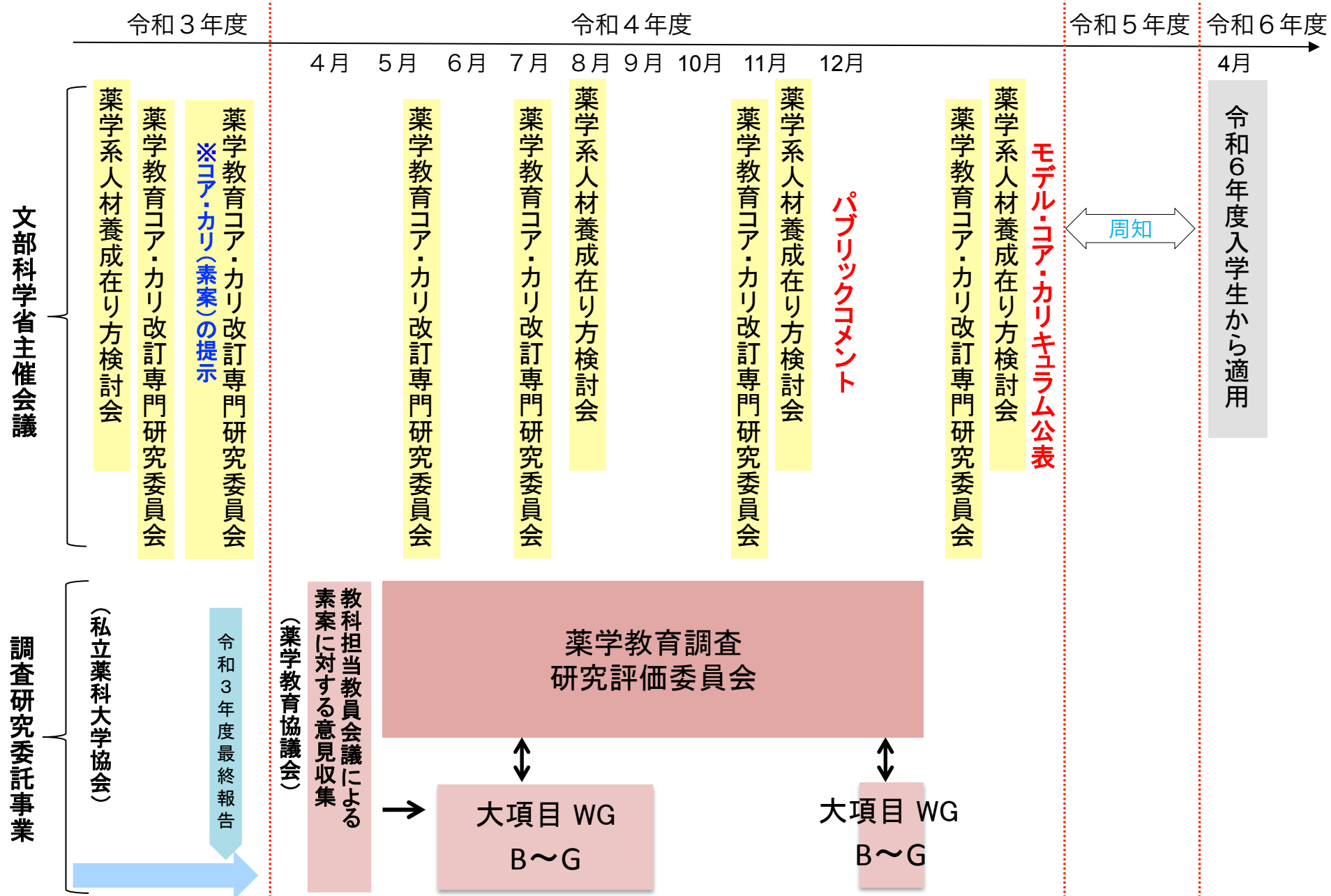
薬学教育調査・研究・評価委員会 委員名簿

構成	氏名 (敬称略)	所属等	役職等
専門研究委員会	本間 浩	薬学教育協議会 北里大学	代表理事 名誉教授
	平田 収正	和歌山県立医科大学薬学部	教授
	小佐野 博史	帝京大学薬学部	名誉教授
	鈴木 匡	名古屋市立大学薬学部	教授
薬学教育協議会	亀井 美和子	帝京平成大学薬学部	薬学部長
	後藤 直正	京都薬科大学	前学長
	大津 史子	名城大学薬学部	教授
	伊東 明彦	帝京平成大学薬学部	教授
教科担当教員会議 メンバー代表	高橋 秀依	東京理科大学薬学部	教授
	小澤 孝一郎	広島大学	副学長
	角山 香織	大阪医科薬科大学薬学部	准教授
	荒田 洋一郎	帝京大学薬学部	教授
日本薬剤師会	長津 雅則	日本薬剤師会	常務理事
	松浦 正佳	日本薬剤師会	理事
日本病院薬剤師会	石井 伊都子	千葉大学医学部附属病院	薬剤部長
	高田 龍平	東京大学医学部附属病院	薬剤部長
オブザーバー	井上 圭三	薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会 帝京大学	座長 副学長
	小西 靖彦	静岡県立総合病院	病院長
	河野 文昭	徳島大学大学院医歯薬学研究部	教授
		文部科学省高等教育局医学教育課	
		厚生労働省医薬・生活衛生局総務課	

大項目ワーキンググループ (B～G：6グループ) 班長名簿

大項目ワーキンググループ (B～G班)	氏名 (敬称略)	所属等	役職等
B 社会と薬学	亀井 美和子	帝京平成大学薬学部	薬学部長
C 基礎薬学	後藤 直正	京都薬科大学	前学長
D 医療薬学	小佐野 博史	帝京大学薬学部	名誉教授
E 衛生薬学	平田 収正	和歌山県立医科大学薬学部	教授
F 臨床薬学	鈴木 匡	名古屋市立大学薬学部	教授
G 薬学研究	平田 収正	和歌山県立医科大学薬学部	教授

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のスケジュール



薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針

1. 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容の検討
2. 生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
3. 各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
4. 臨床薬学という教育体制の構築
5. 課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
6. 医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針

1. 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容の検討
2. 生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
3. 各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
4. 臨床薬学という教育体制の構築
5. 課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
6. 医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針 (2. 再掲)

2. 生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開

現行のモデル・コア・カリキュラムでは、6年卒業時に必要とされる「薬剤師として求められる基本的資質」を掲げた学修成果基盤型教育とGIO・SBOsを提示したプロセス基盤型教育の構成が混在している。これを改め、生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を掲げた学修成果基盤型教育の新展開を行なう。

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力

1.	プロフェッショナリズム	豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識と、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害（薬害、医療事故、重篤な副作用等）を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。
2.	総合的に患者・生活者をみる姿勢	患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。
3.	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己並びに他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯に渡って学び続ける。
4.	科学的探究	薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。
5.	専門知識に基づいた問題解決能力	医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるように、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。
6.	情報・科学技術を活かす能力	社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。
7.	薬物治療の実践的能力	薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者本位の処方提案等の薬学的管理を実践する。
8.	コミュニケーション能力	患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。
9.	多職種連携能力	多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。
10.	社会における医療の役割の理解	地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」

- ・ 生涯にわたって目標とする資質・能力
卒業時の目標ではない
- ・ 医学・歯学・薬学で共通化（一部は異なる）

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針 (3. 再掲)

3. 各大学の責任あるカリキュラム運用のための 自由度の向上

現行のモデル・コアカリキュラムでは、学習すべき事項がSBOsとして細部にわたって記載されており、各大学はそれらを網羅するのに時間を費やされて大学独自の内容をカリキュラムに取り入れる余裕が無い。詳細なSBOsを廃して学習すべき内容をコアとし、各大学の理念やディプロマポリシーに基づき責任を持った教育が可能となるように大学のカリキュラム作成における自由度を高める。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた基本方針 (4. 再掲)

4. 臨床薬学という教育体制の構築

個々の施設で直ちに専門家として実務が実施できるようになることを目的とした実務研修(新人研修等)ではなく、将来、国民のためになる薬剤師として何を行うのか、どのような課題を見つけ解決策を導いて社会貢献につなげるのかといった観点を重視した。本モデル・コア・カリキュラムでは、大学初年次から、疾病の予防や個々の患者の状況に適した責任ある薬物療法が実践できる薬剤師の養成を目指し、大学と医療現場が連携して教育を行う「臨床薬学」という教育体制の構築を行った。

大項目について

現 行
平成25年度改訂版

改訂案
令和4年度改訂版

薬学教育モデル・コアカリキュラム

A 基本事項

B 薬学と社会

C 薬学基礎

D 衛生薬学

E 医療薬学

F 薬学臨床

G 薬学研究

薬学教育モデル・コア・カリキュラム

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力

B 社会と薬学

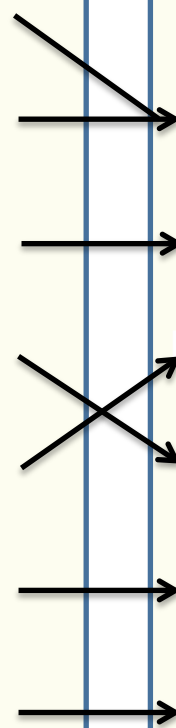
C 基礎薬学

D 医療薬学

E 衛生薬学

F 臨床薬学

G 薬学研究



薬学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

●大項目

- ・ <大項目の学修目標>
- ・ <薬剤師として求められる基本的資質・能力とのつながり>
- ・ <評価の指針>

●中項目

●小項目

- ・ <ねらい>
- ・ <学修目標>
- ・ <学修事項>
- ・ <評価の指針 重点>

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

大項目

<大項目の学修目標>

- 大項目B～Gの各大項目により到達を目指す目標。モデル・コア・カリキュラム履修を想定したときの修了(卒業)時の標準的な学修成果(アウトカム)。大項目「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を獲得するために、当該大項目の学修内容に基づいて設定される。

<薬剤師として求められる基本的な資質・能力とのつながり>

- 各大項目B～Gの学修が、生涯の目標である「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」とどのようにつながっていくかを記載している。

<評価の指針>

- 学修目標への到達を評価するための視点として示されている。<評価の指針>に示された視点で、各大学は学修目標に基づいて学生の到達度を評価する方法、指標等を作成することが求められる。

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

大項目

中項目

●小項目

○＜ねらい＞

- ・他の項目との関連性を明記。「他領域・項目とのつながり」を記載。

○＜学修目標＞

- ・モデルコアカリの本体
- ・個別の知識や技能を概念的に把握し体系化して理解すること、知識や技能を活用して判断し行動することを示したものである。
- ・＜学修事項＞を参考として＜学修目標＞を読み解き、各大学が独自のカリキュラムに具体化する。

概念化

概念とは、「理解している物事に共通している特徴」という意味である。学生が概念を身に付けるということは、学生が学ぶべき対象を理解し、認識するときに、それらに共通する特徴を身に付けるということである。具体的事実を網羅的に数多く覚えるのではなく、いくつかの典型的な例をもとに考えることで共通点を見出し、新たに直面した事象に応用する力、問題点を解決する力を身に付けることを意味する。

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

大項目

中項目

●小項目

○＜学修事項＞

- ・ 学修目標を達成するために必要な具体的な内容を、各大学のカリキュラム作成の際の参考として記載。
- ・ これらだけを修得すれば良いということではない。
- ・ 1つ1つ網羅的に達成していくSBOsと同様に捉えるべきではない。
- ・ 各大学が作成するカリキュラムでは、＜学修事項＞の取り上げ方が違ってくる(濃淡が有り得る)。
- ・ 各学修事項に対応する学修目標の番号を、末尾の【】内に記載している。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版） （素案）の目次（案）

- ① 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方
- ② 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の概要
- ③ A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
- ④ B 社会と薬学
- ⑤ C 基礎薬学
- ⑥ D 医療薬学
- ⑦ E 衛生薬学
- ⑧ F 臨床薬学
- ⑨ G 薬学研究
- ⑩ 薬学教育モデル・コア・カリキュラム今回の改訂までの経過
- ⑪ 検討組織の設置・委員名簿
- ⑫ 医師・歯科医師・薬剤師が関わる法令一覧
- ⑬ 略語集

※青文字は今後作成予定

その他の特徴

- 実習・実験は、モデル・コア・カリキュラムのなかには記載しない（大項目によっては、方略となる〈学修目標〉が掲げられている場合もある）。別に、「ガイドブック」や「手引き」的なものとして方略やGood Practiceなどをまとめる。

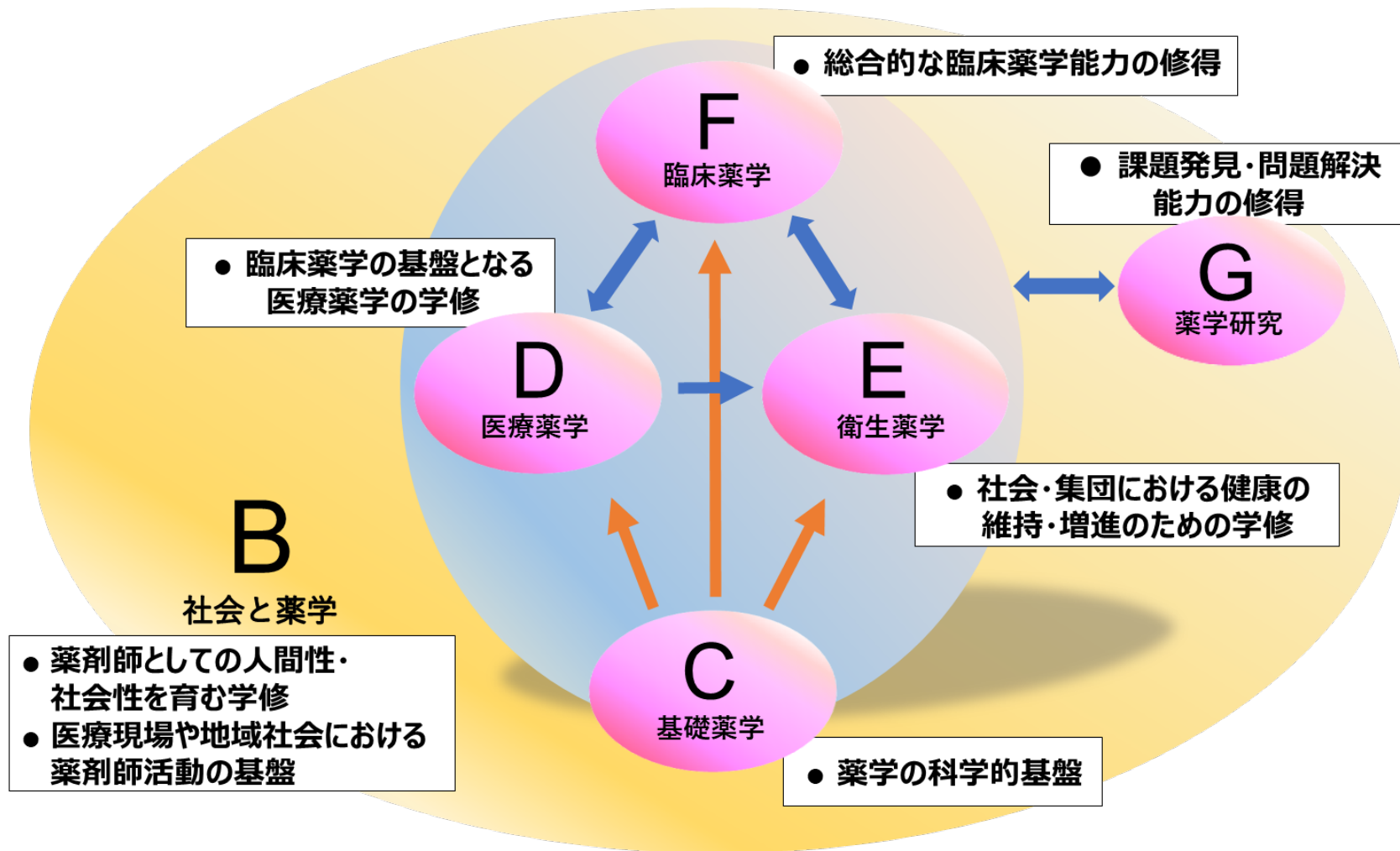


図 大項目「B 社会と薬学」～「G 薬学研究」の相互の関連(イメージ図)

いただいた質問事項

- 共用試験との関係
- 薬剤師国家試験との関係
- モデル・コア・カリキュラムの順次性の遵守

大学独自の3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの作成について

- 「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」は、生涯に涉って目標とするもの。－ 卒業時に修得する目標ではない。
- 各大学は、「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を参考に、大学の理念、人的・物的資源、教育環境などを考慮して、卒業時に評価可能な大学独自のディプロマ・ポリシーを策定する。
- 各大学は、大項目B～Gの学修目標を達成するための効果的で独自性のあるカリキュラムを構築する。－ 教員の教科分担表ではなく、学生の視点に立って。
- 各大学の6年間のカリキュラムを修了しその学習成果をもとに、「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を生涯にわたる目標として研鑽を積む姿勢へとつながる。

大学独自の3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの作成について

A 薬剤師として求められる
基本的な資質・能力

各大学のディプロマ・ポリシー

B	C	D	E	F	G
社会と薬学	基礎薬学	医療薬学	衛生薬学	臨床薬学	薬学研究

「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を踏まえて、各大学がその理念、環境、人的・物的資源などを考慮して、ディプロマポリシーを独自に作成する。

図 「A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力」とディプロマ・ポリシー

今後の運用について

- モデル・コア・カリキュラムに基づいて大学独自のカリキュラムを構築して実施することが、教育の内部質保証につながる。
- モデル・コア・カリキュラムに基づいた教育はもとより、語学能力や幅広い教養を身につけた人材養成に努める。
- 今後、モデル・コア・カリキュラムの充実に向けて、各大学での検証、問題点の収集と改善策の実施に努める。

ご清聴ありがとうございました。